

# 令和3年度学校経営の改革方針

津市立芸濃中学校

## 【学校経営の改革方針】

### 1 めざす学校像

学校教育目標：自立に向かう生徒の育成～人を大切に～

気づきが拓く学校づくり ～人を大切に～

- ◎ 一人ひとりが安心して生活できる学校（安心）
- ◎ 明るく活気に満ちた学校（活気）
- ◎ 改善により指導力を高め続ける学校（学校力・教師力）

<カ点>

- ① 学校教育の核は授業である
- ② 目の前の子どもの姿を出発点にする
- ③ チームで子どもを育てるという意識と実践

### 2 現状と課題

- ① 授業や部活動等学校生活全般において仲間とともに真剣に取り組む姿がよく見られる。しかし、授業でのグループ学習において表層的な話し合いに終始したり、家庭学習の時間が短かかったりすることに象徴されるよう、学習課題を深く考えたり、家庭学習を積み重ねて自らの学習を調整したりする力が十分育まれていない傾向がある。その中には、個別に丁寧な継続的支援が必要な生徒も少なくない。
- ② 人権教育に積極的に取り組み、自らを振り返り、他者とつながり合う学習を推進しているが、日常生活で軽はずみな言動で他人を傷つけたり、それを周囲が見て見ぬふりをしたりするような事案があるなど、学びを自分化、日常化させる必要がある。
- ③ まちづくり協議会、社会福祉協議会等と連携して様々な取り組みを行い、「地域とともにある学校づくり」を大切にされた学校経営を進めてきた。GVT（芸濃中学校ボランティアチーム）活動にも地域の方々とともに意欲的に取り組む姿がある。今後も「地域とともにある学校づくり」の観点を大切にしていく。
- ④ 子どもの育ちを最優先に、教職員の真摯な取組により学校運営が進められている。その一方、部活動の指導も含め、教職員の過重労働削減に向けて、総勤務時間の縮減への取組を推進する必要がある。

### 3 重点目標

- ① 一人ひとりの学びを保障する授業づくり（新学習指導要領に沿った授業改善の推進）
- ② 他者とのかかわりによって豊かな感性と確かな実践力を育む教育の推進（人権学習の取り組みと集団づくり）
- ③ 地域・保護者とともにある学校づくり（学校運営協議会を起点とした地域との連携）
- ④ 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組みの強化

### 4 具体的な行動計画

- ① 一人ひとりの学びを保障する授業づくり
  - ・「芸濃中授業づくりの柱」をもとに、主体的、対話的で深い学びの実現による資質・能力の育成を目指した授業研究を積極的に公開する。なお、英語・数学においては、少人数授業の利点をより一層生かした指導に取り組む。
  - ・津市G I G Aスクール構想の趣旨に則り、生徒一人一台パソコンを文房具化し、学習内容の理解を促すとともに、自調自考及び学びの表現による自立に向けた学力を育む。
  - ・生活習慣調査等の分析結果の保護者・生徒との共有及び家庭学習の取り組み方の指導を強化し、学習時間の量を確保し、質を高める。
- ② 他者とのかかわりによって豊かな感性と確かな実践力を育む教育の推進
  - ・人権・同和教育を基盤にした集団づくりを進めるとともに、学年の積みあげを大切にしたい取り組みを進める。
  - ・生徒会活動を充実させるために、活動の目的を明確に指導した上で、授業づくり・ボランティア活動など多様な活動場面を設け、生徒に学校づくりの主体者意識を持たせる。
  - ・保幼小中での連続した人権教育カリキュラムによる実践を推進する。
- ③ 地域・保護者とともにある学校づくり
  - ・教育効果を高めるために、学校運営協議会の機能を用いて、地域の団体（PTA、まちづくり協議会、社協推、社会福祉協議会等）との連携を深めるとともに、目的と教育的な意義を照らし合わせて取組の精選を図る。
  - ・学校行事、学年行事、授業などを積極的に公開するなど、学校を外部に開く。
- ④ 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組み
  - ・学校部活動運営方針を遵守した部活動運営を行うとともに、すべての部の複数顧問体制化の実施と放課後の部活動時間の縮減を図る。
  - ・職員会議や研修会等の時間を60分以内とする。
  - ・教育的効果及び教職員への負担の両面を勘案し、学校行事の内容を見直し地域行事への参加の精選を図る。